

公開資料

令和6年度

全国学力・学習状況調査結果

令和6年4月18日実施



我孫子市立並木小学校

○小学校国語＜R6 並木小学校＞

◎本校の平均正答率が県74%、全国67.7%を上回っている。

ほとんどの領域についてよく理解できている児童が多い。

登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる児童が多い。目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる児童が多い。

○成果と課題

話すこと・聞くこと

◇目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる児童が多い。

◆資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。

書くこと

◇目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる児童が多い。

◇目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる児童が多い。

読むこと

◇登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる児童が多い。

◇人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる児童が多い。

言葉の特徴や使い方に関する事項

◇学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく読んだり、書いたりすることができる児童が多い。

◆文の中における主語と述語との関係を捉えることに課題がある。

情報の扱い方に関する事項

◇情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる児童が多い。

◇…全国平均と比較してよくできている点 ◆…課題のある点

○小学校算数＜R6 並木小学校＞

◎本校の平均正答率が県74.0%、全国63.4%を大きく上回っている。

すべての領域についてよく理解できている児童が多い。

特に、速さに関する問題ができる児童が多い。問題場面を式に表したり、小数の除法の計算をしたりすることができる児童が多い。

○成果と課題

数と計算

◇問題場面の数量の関係を捉え式に表したり、数量の関係を□を用いた式に表したりすることができる児童が多い。

◇ $350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書いたり、除数が $1/10$ になったときの商の大きさについて、正しいものを選んだりすることができる児童が多い。

図形

◇直方体の見取図や直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している児童が多い。

◇立方体の体積の求め方を式に表すことができる児童が多い。

◇角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる児童が多い。

変化と関係

◇早さの意味について理解し、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる児童が多い。

◇道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる児童が多い。

データの活用

◇簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができる児童が多い。

◇折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる児童が多い。

※記述する問題において、正答率の高いものの無解答率も数%見られた。

児童質問紙から見える並木っ子児童像

基本的生活習慣

- 朝食を毎日食べているかの質問に対し、98%以上の児童が「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答し、全国平均を約5ポイント上回った。
- 毎日、同じくらいの時刻に起きているかの質問に「起きている」「どちらかといえばそうしている」と回答した児童の割合は約90%で、全国平均とほぼ同じである。

朝食を摂ることや一定の起床時刻にするなど、基本的生活習慣を身に付けている。

家庭学習、読書の習慣(学習時間等)

- 学校の授業以外に平日1日1時間以上学習していると回答した児童の割合が約49%で、全国平均を約15ポイント上回っている。
- 学校が休みの日に1日当たり1時間以上学習していると回答した児童の割合が約55%で、全国平均を約7ポイント上回っている。一方、1時間より少ないと回答した児童の割合が約43%であった。
- 家に25冊以上本があると回答した児童の割合は約61%で、全国平均とほぼ同じである。
- 新聞を読んでいるかの質問に「毎日読む」「週1～3回読む」と回答した児童の割合は約17%で、全国平均を約6ポイント上回っている。

本校の児童の家庭学習の状況を分析すると、毎日1時間以上学習している児童が多い。しかし、学習時間を見ると、比較的長時間学習している児童とそうでない児童に大きく分かれている。また、本や新聞が身近にあり、読む環境にある児童が全国平均より多い。

主体的・対話的で深い学びの視点による学習の取組状況

- 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたかの質問に対し、「発表していた」「どちらかといえば発表していた」と回答した児童の割合が約57%で、全国平均を約10ポイント下回っている。
- 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたかの質問に対し、「取り組んでいた」「どちらかといえば取り組んでいた」と回答した児童の割合は、約78%で、全国平均とほぼ同じである。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているかの質問に対し、「できている」「どちらかといえばできている」と回答した児童の割合は約82%で、全国平均とほぼ同じである。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているかの質問に対し、「できている」「どちらかといえばできている」と回答した児童の割合は約74%で、全国平均とほぼ同じである。

自ら進んで学習できるような手立てを講じ、対話から自分の考えを深めたり、広げたりする活動を取り入れた授業に取り組んだことで、全国平均を保っている。しかし、自らの考えを工夫して発表することには課題が見られる。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、引き続き工夫をしていく必要がある。

自己有用感、規範意識等

- 自分には、よいところがあると思うかの質問に対し、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童の割合は約80%で、全国平均とほぼ同じである。
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うかの質問に対し、「認めてくれている」「どちらかといえば認めてくれている」と回答した児童の割合は約85%で全国平均とほぼ同じである。
- 将来の夢や目標を持っているかの質問に対し、「持っている」「どちらかといえば持っている」と回答した児童の割合は約82%で全国平均とほぼ同じである。
- 人の役に立つ人間になりたいかの質問に対し、「なりたい」「どちらかといえばなりたい」と回答した児童の割合は約95%で全国平均とほぼ同じである。
- 人が困っているときは進んで助けているかの質問に対し、「助けている」「どちらかといえば助けている」と回答した児童は約90%で全国平均とほぼ同じである。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うかの質問に対し、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童の割合は、98%で全国平均とほぼ同じである。

児童一人一人のよさを認め、そのことを児童が感じられるように働きかけ、自信を持たせてきたことで、自己有用感が高まってきた。将来の夢や目標を持ち、人の役に立ちたい気持ちも高い。また、いじめはいけないことだという意識や、困っている人を助けたいという規範意識も高い。自己有用感や規範意識が高まるよう、引き続き働きかけていく必要がある。

国語の学習に対する興味・関心や授業の理解度等

- 国語の勉強は好きかの質問に対して、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童の割合は約68%で、全国平均を約7ポイント上回っている。
- 国語の授業の内容はわかるかの質問に対して、「わかる」「どちらかといえばわかる」と回答した児童の割合は約89%で、全国平均とほぼ同じである。
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うかの質問に対して、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童の割合は約94%で全国平均とほぼ同じである。

「生き生きと主体的に学ぶ児童の育成」を目指して国語の研修を行ってきたが、興味・関心を高め、見通しや目的意識を持たせて、文章を読み、書き、話し合う活動をさらに充実させるよう、授業改善に取り組んでいく必要がある。